



キャンパス / 神奈川県横浜市、平塚市
 学生数 / 17,813人
 学部 / 法、経済、経営、外国語、国際日本、人間科学、理、工、建築、化学生命(2023年4月開設)、情報(2023年4月開設)
 大学院 / 法学、経済学、経営学、外国語学、人間科学、理学、工学、歴史民俗資料学
 THE世界大学ランキング2023 / 1501位、同日本版2022 / 141-150位、THEインパクトランキング2022 / 601-800位

CASE STUDY

組織的支援で強みをつくり 研究と教育を相互に活性化

神奈川大学

創立100周年となる2028年に向け、学部やキャンパスの再編が進む神奈川大学。研究面でも組織や制度を強化し、研究と教育が互いに寄与し合うしくみづくりをめざす。



副学長 社会連携センター所長 工学部教授

林 憲玉

いんぼんおく ● 韓国弘益大学電気電子工学部卒業。早稲田大学創造理工学部総合機械工学科卒業後、同大学院総合機械工学専攻修了。2005年神奈川大学工学部入職。2014年工学部長、2017年理事、2020年工学研究科委員長を経て現職。

組織化と重点的投資で 研究の活性化を促す

従来、本学の研究支援は個々の研究のボトムアップが主でした。しかし今、大学の研究が他大学ほか産業界からも注視され、世界大学ランキング等の社会的評価に直結しています。2020年度の中長期計画策定を機に、組織的な研究推進、強みのある分野への重点的な投資に力を入れるべく、組織や制度の整備に乗り出しました。組織面では、*1 URA等を擁する「研究支援部」を2023年度「研究推進部」に改組。特色ある研究の推進力強化を図ります。改組に先駆けて進める「分野横断型研究推進事業」は、研究者同士の出会いと新たなテーマの創発を促すもので、分野が異なる学内研究者3人以上による申請が条件。特に若手、女性の参加を求めています。

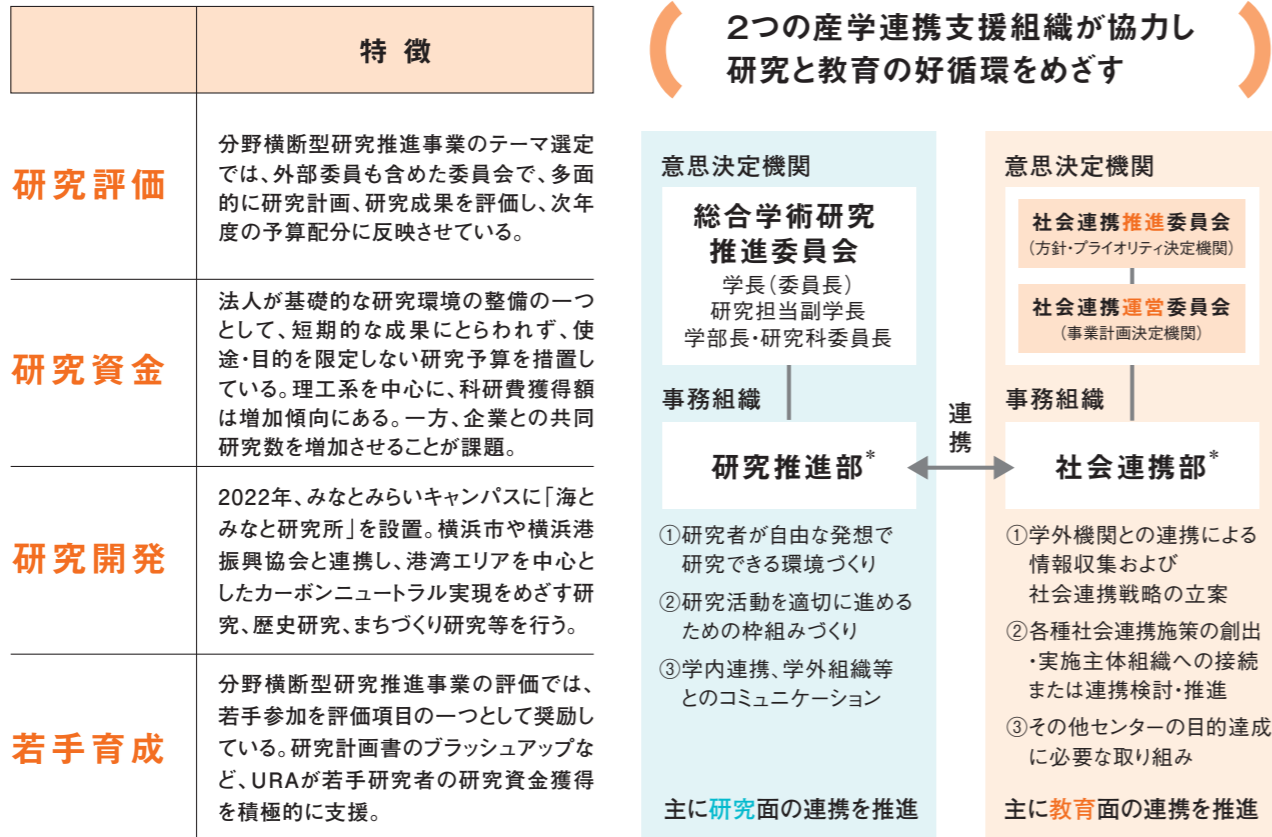
化学分野の研究成果を 経営分野の教育に応用

重点投資のモデルとなるのが、応用化学分野で生まれた*2「三相乳化技術」の研究です。技術特許の事業化を目的にしたベンチャー設立に、大学は100%出資。同社を介した共同研究や企業への技術移転により今や300以上の商品が生まれ、大学の経営面に大きく貢献しています。大学自身もこの技術を用いて化粧品ブランド「PROUD BLUE」を立ち上げ、商品をリリースしました。本学の研究力を示すアイコンとして、広報素材にもなっています。また、起業にも積極的に支援していきます。2021年度に、横浜みなとみらい・関内地区をメインフィールドとした産学官連携・起業支援のプラットフォームを形成する*3 SCORE事業に採択されました。本学は、学内外の起業家や起業のタネとなる研究シーズの育成といった役割を担っています。

例の合同会議のほか、密接に連携しています。目的は研究と教育の循環。応用化学分野の学生が研究に携わるのももちろん、「PROUD BLUE」を題材にしたPBLが進行中です。マーケティング、商品企画のフレームワークを学び、自己成長を促すプロジェクトを社会連携センターが発足させ、自学の研究成果を素材に、他分野の学生も学べるしくみをつくりました。また、SCORE事業の一環として、2022年からみなとみらいキャンパス内の実験工房「ファブラボみなとみらい」を一般開放。大学院生を含む学生、教職員、企業人、地域人が出会う創発の場としました。ここから本学の研究シーズを用いた起業や産学連携が生まれれば、それがまた、学生や研究者を育てる場にもなります。今後は教育目的の産学連携により、研究を活性化させる事例もつくりたいと思っています。社会連携センターが発足間もないこともあり、今は学生プロジェクトの増加に注力していますが、それらのプロジェクトがテーマとして扱う社会課題を、研究者につながるのも効果的ははずです。よい研究がよい教育を、よい教育がよい研究を生むサイクルを、2つの組織の連携によって形づくっていきます。

取材・文 / 見山雄介 撮影 / 亀井宏昭

研究マネジメントの特徴とその工夫



* 2023年4月、事務局機能強化のため改組

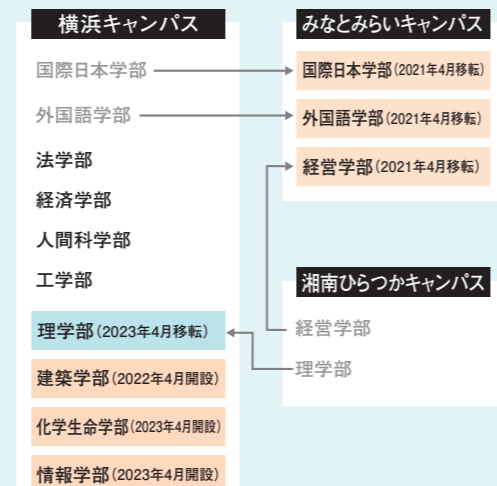
注目!

「横浜」「みなとみらい」2キャンパスの立地を生かした教育・研究構想が進む

この数年、神奈川大学が進めてきた学部・キャンパスの大規模な再編が、2023年度に完成を迎える。横浜キャンパスには、2023年に新規開設の2学部を含め、理工系の5学部を集める。分野横断型研究が進めやすくなると同時に、学生にとっても他の学問との隣接領域が学びやすくなる。

一方、2021年に誕生したみなとみらいキャンパスには、グローバル系の3学部が置かれている。同地区には多数のグローバル企業が位置し、教育・研究両面の産学連携が期待できる。また、神奈川県は同地区でベンチャー企業の拠点形成を進めていて、神奈川大学はその活動の核になるべく、起業支援を積極的に行っている。湘南ひらつかキャンパスの理学部は2023年4月、横浜キャンパスに移転し、両キャンパスを30分程度で行き来することが可能となる。みなとみらいで生まれた研究シーズを横浜の理工系学部が研究したり、横浜の研究者がみなとみらいに通って企業のオープンイノベーションを促進したりといった、2キャンパス一体の活動が想定されている。

学部・キャンパスの再編



* グレーの学部はキャンパスを移転